

Risk Flash No.159

(Vol.5No.1)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404
 FAX:0749-27-1189 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

- 経済史の視点:明治における「田舎暮らし」の先駆者・徳富蘆花……………Page 1
- 論文紹介：彦根市観光に関する経済効果測定調査報告書……………Page 2
- リスク研究センター通信……………Page 2

経済史の視点

明治における「田舎暮らし」の先駆者・徳富蘆花 とくとみろか

社会システム学科教授 金子孝吉 かねこたかよし

徳富蘆花は明治後期から大正にかけてよく読まれた人気作家で、小説『不如帰』や小品集『自然と人生』などはベストセラーになりました。NHKの昨年の大河ドラマ『八重の桜』にも、若き日の蘆花が登場していました。そこでは、彼が同志社で学んでいた際、京都府議会議長を務めた元会津藩士・山本覚馬の娘久栄と恋仲になったものの、彼女との交際を、覚馬の妹・八重らの干渉を受けて断念した経緯が描かれていました。



徳富蘆花

さて、蘆花は生涯を通じて作家ではありませんでしたが、現在の時点からみて、彼の人生には、もう一つ注目すべき側面があります。それは、彼が近代の日本において逸早く都会生活を自覚的にやめて「田舎暮らし」を実践した人物の一人だったということです。

近年、都会でサラリーマンをしてきた者が、定年退職を機に（または定年を待たずして）田舎に引っ越し、農業を始めるという事例が増えています。中年を過ぎて、自然の中で土に触れて生活することを目指す人たちが目立つようになってきているのです。

明治元年生まれの蘆花は、明治四〇年、それまで住んでいた東京の青山高樹町から北多摩郡千歳村粕谷——現在は世田谷区になっているが当時はまだ完全な農村地帯——に土地を買って移住し、農業を営み始めました。これは、その前年にロシアを訪ねて文豪トルストイと会い、その帰農思想に強く影響されたことによります。

田舎に暮らし始めた蘆花が、草葺の家に住み、畑を耕し、種を蒔き、草を取り、野菜や麦を収穫し、花や果樹を育て、村祭に加わり、近所の老人たちの葬儀に参列した日々を綴ったのが、『みみずのたはこと』と題されたエッセイ集です(岩波文庫に入っています)。

蘆花は、その中に、風から家屋敷を守るための櫓けやきが聳え、肥料や薪炭にするための櫟くぬぎ・檜ならなどの雑木林が点在し、麦畑や大根畑の広がっていた武蔵野の風景、月毎に移り変わってゆく周りの自然の様相、村人たちの日々の営みなどを、ユーモアを交えて克明に記しています。

近代化・都市化に猛進していた時代のさなかであって、それに流されることなく、自然についての深く確かな智識を持ち、田園生活を愛し、農業回帰の姿勢を貫いた蘆花の生き方は、日本の農業が危機に瀕している今、改めて注目されてもいいのではないかと思います。

論文紹介

彦根市観光に関する経済効果測定調査報告書

～平成25年 彦根市観光の消費動向調査結果および観光消費による経済的波及効果の推計～

編者：社会連携研究センター教授

いしいよしかず

石井良一

経済学科准教授 とくだまさあき

得田雅章

発表：彦根市



著者のつぶやき

彦根市観光消費による波及効果の推計を伴う経済効果測定調査（H25年）は、H19年に実施された「彦根城築城400年祭 経済効果測定調査」から毎年実施されているものであり、今回で7回目となりました。暦年の調査結果を、波及推計まで行ったうえでその翌年の3月に公表する本調査報告書は、速報性において全国的に希少なものです。

彦根の代表的観光スポットである城山公園（彦根城を含む）の入場者数は、前年比3.4%増加しました。また、普通車の駐車台数は7%増、大型車では5%増でありました。一方で、彦根城博物館の来場者数は3%減り、同玄宮園の入園者数は14%も減ってしまいました。観光客の実人数は206万人（対前年2.7万人増）に増加したものの、1人あたり訪問地点数が減ったことで、観光入込客数は4%減となり、ほぼ4年前（H21年）の水準まで戻ってしまいました。1人あたり観光消費額では、日帰り客で微減となったものの宿泊客では6%も増加しました。結果として、消費総額は141億円（同4億円増）であり、経済波及効果は266億円（同8億円増）となりました（表）。

主要調査結果

	直接効果			波及効果		主要参考指標			
	観光客数 (実人数推計) (万人)	観光消費額 (億円)	うち ひこにゃん グッズ 販売額 (億円)	総額 (億円)	雇用 効果 (人)	1人あたり観光消費額		城山公園 (彦根城) 入場者数 (万人)	市内 観光 入込客数 (万人)
						日帰り 客 (円)	宿泊 客 (円)		
平成19年	243	174	17	338	2,872	5,184	23,308	76	406
平成20年	185	170	10	331	1,955	6,660	29,554	65	333
平成21年	210	108	8	211	1,200	3,741	20,576	72	323
平成22年	211	120	8	228	1,129	4,061	19,517	73	344
平成23年	228	143	8	271	1,324	4,141	20,408	83	364
平成24年	204	137	9	258	1,309	4,393	20,260	72	332
平成25年	206	141	8	266	1,304	4,332	21,499	74	319
前年差	2.7	4.0	▲1.0	8.1	▲5	▲61	1,239	2.5	▲13
前年比	1.3%	2.9%	-11.4%	3.2%	-0.4%	-1.4%	6.1%	3.4%	-3.9%

※平成19年は「彦根城築城400年祭」開催期間(250日)の経済効果を測定したものの。

調査結果の応用例として、報告書では都心における自治体アンテナショップの設置効果について考察しています。そのうえで、首都エリアからの観光客誘致に成功した場合、彦根市への経済波及効果がどの程度なのか、6つのシナリオを立てて試算しました。効果最大の場合、波及総額では43.8億円上積みされ、市内第3次産業の総生産は1.58%押し上げられるという結果になりました。

政策の効果に関して、単純かつ定性的な方向付けだけでなく、定量的な数値を各種経済指標との比較のもとで明示できたことは、今回の調査・分析で得た大きな果実といえるでしょう。
(得田雅章)

リスク研究センター通信

経済学部講演会報告

3月15日に、京都大学教授 藤井聡氏をお招きし『国土強靱化が日本を救う』と題して講演して頂きました。詳しくは、

<http://www.biwako.shiga-u.ac.jp/eml/kouenkai2013/LE20140315.htm> をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的の問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前にご下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

■ <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、
得田雅章、宮西賢次、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局
(Office Hours:月一金 10:00-17:00)
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189
e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp